令 和 ３ 年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立秩父農工科学高等学校 定時制課程）

目 指 す 学 校 像	・生徒に社会でたくましく生きていくための力を身につけさせる学校 ・地域の要望に応える学校

重　点　目　標	１　「わかる授業」への取組による基礎学力向上 ２　自主性と自律心育成による、進学・就業の進路実現 ３　地域に信頼される学校づくり

※重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	７名
	生徒	３名
	事務局（教職員）	１１名

学　校　自　己　評　価								学　校　関　係　者　評　価
年　度　目　標					年 度 評 価 （ ２ 月 １ ０ 日 現 在 ）			実施日　令和４年２月２５日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	・多様な生徒が在籍し、生徒間及び学年間の学力差が明確である。幅広い学力層に対応した学び直しによる基礎学力の向上を目指した学習指導が必要である。 ・「わかる授業」を効果的に行うため、生徒個々の学習意欲や理解状況を把握し、きめ細かな学習指導や支援体制の充実を図る必要がある。	基礎学力向上による成績不振者率の減少及び成績優良者率の増加	①学習サポーターを活用して「達成目標確認テスト」を実施し、基礎学力の向上を図る。 ②G Suite for Education を活用した授業や定期考査前の補習、個別指導等を実施する。	①２・３学年対象に数学の授業で「達成目標確認テスト」を実施し、昨年度に比べ、点数の改善が見られたか。 ②昨年度に比べ、成績不振者率が減少し、成績優良者率が増加したか。	基礎学力向上による学習指導の成果が見られた。 ①年間１５回の「達成目標確認テスト」を実施したところ、66.7%の生徒に点数改善が見られ、基礎学力の向上につながった。 ②成績優良者率は 31.3%、成績不振者率は0%だった。昨年度に比べ、成績優良者が減少した。	B	・今年度も実施した「達成目標確認テスト」の成果と課題を整理し、基礎学力向上に向けた指導改善を継続的に実施する。 ・教職員の授業改善においては、生徒に実施した授業等に関するアンケートの結果を適切に活用しているか、またフィードバックシートの在り方と活用法を共有し、教職員全体で授業の質を向上させる。	「わかる」ということは生徒の可能性を広げるうえで非常に大切だと思う。また、学習サポーターを活用した個々に応じた学習指導は生徒の基礎学力向上に直結しているので、今後も年齢に関係なく学びたいと思っている人を受け入れ、個々に寄り添いながら、わかることの喜びや学ぶことの楽しさを教えていってほしい。
		生徒個々に応じた学習指導や支援体制の充実	①生徒個々の学習意欲や理解状況を把握するため、授業等に関するアンケートを実施する。 ②教員間の学び合いを充実させるため、授業公開週間を設定する。	①授業等に関するアンケートで 80%以上の生徒が「理解できた」と回答したか。 ②年間３回実施し、その都度授業者に提出されるフィードバックシートを授業改善に活用したかアンケートを行う。	生徒個々へのきめ細かな指導・支援が課題である。 ①年間２回の授業アンケートを実施し、80%以上の生徒が「理解できた」と回答した。 ②授業公開で授業見学者がシートに記入し、授業者にフィードバックしている教員が少なく、授業改善に結びついていないことが分かった。	B		
2	・欠席・遅刻が多く、基本的生活習慣の積み重ねがなく、モラルが欠如している。また卒業後の進路を具体的に描けない生徒が多い。社会のルールやマナーを理解させ、自主性や自律心を育む必要がある。 ・多様化する生徒個々に応じた進路意識の啓発を行い具体的な進路選択とその実現に向けた適切な支援を行う必要がある。	基本的生活習慣と規範意識の確立	①欠席・遅刻が多い生徒について教職員間で情報共有し、Google Classroom 等を活用して組織的な指導を行う。 ②「高校生自立支援事業」を活用してきめ細かな指導・支援を行い、中途退学者数をゼロにする。 ③問題行動や非行を未然に防ぐため、教職員及び保護者、スクールカウンセラーとの連携を強化する。	①昨年度に比べ、出席率が向上し遅刻率が減少したか。 ②中途退学者数がゼロになったか。 ③昨年度に比べ、生徒指導件数が減少したか。	生徒の生活習慣の把握と指導体制が課題である。 ①出席率は 89.7%、遅刻率 9.5%だった。昨年度に比べ、出席率が向上した。 ②「高校生自立支援事業」において、サポステと連携を図り、面談や進路意識の向上を推進し、中途退学者数は０名となった。 ③保護者やスクールカウンセラーとの連携を複数回実施した結果、生徒指導件数は０件で、昨年度と同様となった。	A	・欠課時数の多い生徒に対し自らの出席率と遅刻率を把握させ、解決のために教科担当と担任、保護者で情報を共有する。組織的な指導体制で生徒の生活習慣を改善させ、出席率、遅刻率の向上を図る。 ・引き続き進路未決定者ゼロを目指すため、生徒の進路先の試験内容等を調査・分析し、関係機関との連携や活用により生徒個々に対応した進路指導を実施する。	コロナ禍の今、学校と生徒がつながりを持ち続けることが重要である。欠席や遅刻が続き、次第に学校から離れてしまうことがないよう情報機器を活用し、リモートでも学習状況を把握したり、連絡を取り合ったりできるような対応が大切だと思う。また、今後は生徒のモラル向上や人・地域に優しくなれる心を育てるため、自己肯定感を高める教育が必要ではないか。 進路実現については、先生方のお力添えに大変感謝している。
		生徒個々に応じた具体的な進路選択とその実現	①キャリア・パスポートを活用し、希望進路実現に向けて生徒個々に応じた進路指導を行う。 ②外部教育力（就職支援アドバイザー）や関係機関（事業主連絡会）を活用したガイダンスや面接指導等を行う。	①各学年でキャリア・パスポートを活用したか。４学年には希望進路先に応じた面接指導や相談体制を構築できたか。 ②昨年度に比べ、就職内定率や進路実現率が向上したか。	進路実現のため面接指導を強化した結果が出た。 ①各学年でキャリア・パスポートを年間３回実施し、進路実現に向けて活用した。４学年では進路先の情報を把握・共有し、面接指導を強化した。 ②外部教育力と連携し、就職内定率 100%、進学合格率 100%で進路実現率 75%となった。昨年度と同様の決定率となった。	A		
3	・定時制の特色や教育活動の情報発信が十分とはいえない。地域や保護者、中学生、卒業生への情報発信を積極的かつ継続的に行う必要がある。 ・ＰＴＡや事業主連絡会、定時制を支援する会、全日制との連携を強化し、地域に信頼される学校づくりを推進する必要がある。	学校情報の発信の改善	①定時制を支援する会の会報に学校情報を載せ、定期的に情報発信する。 ②ＨＰの掲載方法を変更し、閲覧しやすいよう構築する。さらに、更新回数を増やし、定時制の教育活動を発信する。	①定時制を支援する会が発行する全ての会報に掲載することができたか。 ②掲載方法を変更し、昨年度に比べ、ＨＰの更新回数が増加したか。	学校情報を定期的に発信することができた。 ①支援する会の会報に年間４回学校情報を掲載し、定期的に情報発信することができた。 ②ＨＰ更新回数は 52 回で、昨年度より増加し、定期的に更新することができた。	A	・定時制を支援する会の会報への学校情報掲載を今後も継続して行い、保護者や地域、卒業生への情報発信を積極的に実施する。 ・ＨＰに在籍生徒の学校生活を発信し、教育活動への理解度を向上させる。 ・説明会、中学校訪問は継続して行い、オンラインやメール等でも学校相談等を実施できるように整備し、中学校にＰＲしていく。	定時制だからできる個々に応じた学習指導や支援、または学校生活や卒業後の進路等をもっと積極的に地域へ発信していいと思う。そうすることで信頼を得ることにつながるのではないか。定時制は最後の砦ともいわれるが、今後もさまざまな事情を抱えた生徒の居場所となり、人生の礎を築く場として維持存続してほしい。
		定時制の教育活動に対する理解度の向上	①関係機関（事業主連絡会や定時制を支援する会）や全日制と連携した取組を行う。 ②定時制の特色や学習内容を理解してもらうため、学校説明会や授業・施設見学は随時行い、学校相談等はオンラインやメール等でも実施していく。	①公開授業、文化祭等の行事で関係機関と連携を深め、生徒のためになる事業を計画的に実施できたか。 ②昨年度に比べ、随時受入の学校説明への参加者数と志願者数が増加したか。	情報発信する体制づくりが課題である。 ①行事が延期又は中止となり関係機関との連携が取れなかったため、連絡を定期的に行い、今後の連携方法の意見交換をした。 ②学校説明の随時受入や中学校訪問を実施し、学校ＰＲに努めた。学校説明への参加者数と志願者数は増加した。	B		